

子ども家庭支援センター職員向け研修 2018 [主催 社会福祉法人子どもの虐待防止センター]

子ども家庭支援センターのあり方とは

現在各区に児童相談所設置の動きが加速していますが、現場レベルではまだ様々な論議が必要と思われます。また、市町村と児童相談所との関係も再度問われていきます。今回は「子ども家庭支援センターの役割とは何か。職員に問われているものは」をテーマにしています。子ども家庭支援センターは成り立ちも運営方法も違いがありますが、各々の実情に沿った新たな一歩を全員で考えていきたいと思えます。今回は実践力を養うため、討論、事例検討、ロールプレイ中心の演習形式となります。

【会 場】 社会福祉法人 子どもの虐待防止センター（住所：東京都世田谷区松原 1-38-19）

【対 象】 子ども家庭支援センター職員 *相談業務、ケース対応に従事している方

【定 員】 15名

【受講料】 12,000円（全5回参加推奨。全回参加の場合、割引あり）
3回以上の参加が条件で、参加費は各日支払。1回 3,000円。

【講 師】 山川 玲子（CCAP 相談員、武蔵野市健康課心理士）
石川 ゆう（CCAP 相談員、武蔵野市子ども家庭支援センター）
申 貞順（武蔵野市子ども家庭支援センター）

	日程	テーマ
1	2018年 5月30日(水) 14:00~17:00	子ども家庭支援センターと児童相談所の違い 地域に根ざした子ども家庭支援センターの強みはなにか。 「子ども家庭支援センター」の独自性を検証し、子どもの虐待の予防と早期発見のために、親がSOSを発信できる関係づくりについて考えます。
2	6月13日(水) 14:00~17:00	子ども家庭支援センターの専門性とは 様々な職種が連携する組織として、強みを活かす報告・連絡・相談の方法をふり返し、子ども家庭支援センターの専門性を高める方法を探ります。
3	7月25日(水) 14:00~17:00	母子保健と児童福祉の連携を考える 子ども家庭支援センターの業務の中で母子保健との連携は大変重要です。同行訪問の方法、予防・早期発見に向けた取り組みなどについて、それぞれの地域の実情にあった協働とはなにかを学びます。
4	9月26日(水) 14:00~17:00	子ども家庭支援センターの職員に求められる研修 子ども家庭支援センターの専門性を考える時、独自の研修が必要となります。その内容と方法について考えます。
5	10月31日(水) 14:00~17:00	それぞれの地域の実情にあったケースワークとは 各地の子ども家庭支援センターの成り立ちや地域の特色を大切にしたいケースワークを事例検討を中心に行います。

【 申込方法 】

下記参加申込書にご記入の上、FAXにて子どもの虐待防止センター事務局までお申し込み下さい。
折り返し受講番号と振込口座をFAX連絡いたします。受講番号確認後受講料をお振り込み下さい。
※入金後の返金はできませんので、ご注意下さい。

【 申込書送付先 】

社会福祉法人 子どもの虐待防止センター事務局 FAX 03-5300-2452

TEL 03-5300-2451

WEB

【子ども家庭支援センター職員向け研修 2018 参加申込書】

名前（ふりがな）	資格（ ） 職種（ ）
受講票送付先（自宅・勤務先…いずれかに○） ■ FAX *受講票の返信をFAXにて行いますので必ずご明記下さい	勤務先名称 （所属機関と所属部署名までご記入下さい）
■ TEL（自宅・勤務先…いずれかに○） *日中のご連絡が可能な番号をお知らせ下さい	経験年数 年
■ 住所（自宅・勤務先…いずれかに○） 〒	公費による受講料振込の方は、振込人名をお書き下さい
■ 申込み条件	
(1) 相談業務（ケース対応）を行っていますか？	【 はい ・ いいえ 】
(2) 相談職としての経験年数は何年ですか？	（ 年）
(3) 全5回のうち、3回以上の出席が可能ですか？	【 はい ・ いいえ 】
⇒参加予定回（いずれかに○）5/30（水）・6/13（水）・7/25（水）・9/26（水）・10/31（水） *参加予定の回が変更になる場合は、他日に振替可能です	
ご質問	